産建文教常任委員会

農業新時代の幕開けとなるか

3月11日に委員会が開催され、「農業委員会組織・制度改正」について説明を受けた。

農業委員会制度が大きく変わる

●主な改正内容

◆委員会業務の重点化

◆農業委員の選出方法が選挙制から町長の任命制に変更

◆農地利用最適化推進委員の新設

◆農業会議所の改革

●新制度への移行

改正は平成28年4月1日から施行。現在の委員は平成29年7月19日の任期満了まで在任する。

●移行までの流れ

①検討委員会の設置

②関係条例等の制定、改廃（28年12月議会）

③候補者の推薦・公募

④被推薦者・応募者の公表

⑤選任者の議会による同意（29年6月議会）

⑥農業委員の任命、辞令交付、公表

⑦農地利用最適化推進委員の委嘱、公表

笑顔でがんばってます

質疑

農業委員のなり手が少ない中で

委員　女性や青年の登用などますます任命が難しくなるが、どのように対応していくのか。

当局　農業委員に加え推進委員と2段構えになり、業務量が増え内容が難しくなる中で、報酬が見合っているのかも議論されるべきと考えている。

当町ではどのような方法が良いのか総合的に検討する必要がある。

家庭・学校給食に安心安全な地元の食材を

「白鷹町食育・地産地消推進計画の策定」について説明を受けた。

●概要

地産地消の推進を強化するため、第一次計画となる「食育推進計画」を「食育・地産地消推進計画」に名称を変え、特に次の点の見直しを行った。

◆家庭を基本とし、コメを中心とした日本型食生活の実践

◆生産者である農家の確保・育成・支援

◆安心安全な町内産農産物の供給体制の強化

◆「シラタカ・レッド」の取り組み

◆郷土食を積極的に取り入れ「食」をテーマにしたイベントの実施

◆毎月19日を「家族団らんの日」とし、家族で食事を楽しむ

おいしすぎて、ガブリッ！

質疑

学校給食の食材は

委員　学校給食での地産地消はどの程度実施しているか。

当局　生産時期や価格高騰で確保が難しい食材もあるが、できるだけ地元のものを使うよう生産者や納入業者と調整してきた。今後も継続していきたい。

その他

○白鷹町スポーツセンター構想の推進に向けた基金の検討状況

○日本の紅をつくる町紅花生産日本一連携推進事業の状況

○白鷹町町営住宅等長寿命化計画

○白鷹町建築物耐震改修促進計画の改定について説明があった。

常任委員会は2部門に分かれ審議しています。
産建文教（産業振興・建設水道・教育委員会）